

IMONIKAI

いもにがい

発行 社会福祉法人 大阪市社会福祉協議会
大阪市ボランティア・市民活動センター
住所：〒543-0021 大阪市天王寺区東高津町12-10
大阪市立社会福祉センター内
Tel：06-6765-4041
Fax：06-6765-5618

協力 大阪市各区社会福祉協議会



方言の交差点

—東北弁と大阪弁が出会う場所—

新しい年へ



東北では、旧年から新年に移る年越しのことを「としとり（年取り）」と言います。岩手県の盛岡では江戸時代から使われていた記録があります。岐阜、長野、静岡、広島、香川でも使うという報告があります。「御としとり」とも言うそうです。また、年越し祝いの食事のことを「としとり」と言う地域もあります。そして、福島や群馬では「としとり」を節分の意味で使います。

節分と言えば、京都、大阪、奈良では「としこし（年越

し）」と呼んでいたそうです。たしかに春の節分は、旧い年から新しい年へと移行する時ですね。

節分は、本来「季節の分かれ目」を意味し、立春・立夏・立秋・立冬の前日の呼称でした。季節の節目を大切にしてきた先人の心がうかがえる言葉です。

今年の申（さる）から来年の酉（とり）へのバトンタッチもそろそろです。

新しい年が、みなさんにとって良い年になりますように。

【方言募集】

※方言に関するご質問・ご意見をお寄せください。

住所：〒567-8502 大阪府茨木市西安威2-1-15 追手門学院大学

E-mail：yukushib@otemon.ac.jp

追手門学院大学国際教養学部講師 櫛引祐希子

おおさかの台所 年末・年始の買出しに



食い倒れのまち、おおさかの台所として、庶民の生活を支え親しまれている市場がたくさんあります。安くて新鮮、お店の人もおしゃべり好き。産地の情報やおいしい食べ方も教えてくれるので、会話を楽しみながら上質のものを手に入れることができます。

田尻日曜朝市

大阪府泉南郡

猟師さんが直売する活気あふれる市

まだ動いている大阪産の魚や新鮮な野菜、手作りお惣菜が並びます。市場の裏は海。海上釣堀も利用できます。

【営業時間】毎週日曜日 7:00～正午

【場 所】田尻漁業協同組合

【アクセス】南海「吉見ノ里」駅より 徒歩 約 10 分/無料駐車場あり

泉佐野漁協青空市場

大阪府泉佐野市

昼からでも鮮魚が手に入る市場

珍しい昼網（昼過ぎに水揚げ）、昼セリ後、魚が店頭に並ぶ 14:30～がねらい目です。

【営業時間】10:00～18:00（水曜定休）

【場 所】泉佐野漁業協同組合

【アクセス】南海「泉佐野」駅より 徒歩 約 15 分/無料駐車場あり

木津市場

大阪市浪速区



なんばにある、日本最大級の地方卸売市場

魚介類からお肉、青果まで何でもあります。毎月第2・最終土曜に「木津の朝市」イベントを開催。「セリ大会」は初心者でも参加OK。市場で働く人々ご用達の、市場ならではのお食事処も楽しめます。

【営業時間】4:30～（不定休：HP でご確認ください）

【場 所】大阪木津卸売市場

【アクセス】地下鉄「大国町」駅より 徒歩 約 3 分

年末年始の12月29日（木）～1月3日（火）、大阪市ボランティア・市民活動センターはお休みです。ご了承ください。



ご意見・情報をお寄せください。

☆本紙は毎月1日発行です。

情報掲載希望の方は、2か月前までにご連絡下さい。



問合せ
申込み

社会福祉法人 大阪市社会福祉協議会
大阪市ボランティア・市民活動センター

〒543-0021 大阪市天王寺区東高津町12-10

TEL: 06-6765-4041 / FAX: 06-6765-5618

Email: imonikai@osakacity-vnet.or.jp (担当：赤星)

《利用時間》月～金曜 9:30～20:30

土曜 9:30～17:00（日曜・祝日及び年末年始休館）

各地で増える陳情

今回は、3人の避難当事者が参加しました。うち一人は、住宅支援を打ち切らないでほしいと、東京の参議院会館まで陳情に行ってきたとのこと、このような動きが全国に広がっていると報告しました。もう一人は、先日、大阪市都市整備局に毎日陳情に行っている支



新聞記事紹介

見えにくくなっている避難者

「子ども被災者生活支援法」で、自主避難者への支援がうたわれているにもかかわらず、打ち切られる住宅支援。困惑する避難者の現状として、「東日本大震災避難者の会 Thanks&Dream」代表の森松明希子さんへのインタビューが、11月3日付けの毎日新聞「そこが知りたい 福島県外自主避難者の今」に掲載されました。

その中で、命綱である住宅支援打切りは強制送還と一緒に、と森松さんは話します。避難させまいとする社会的状況、帰還者へシフトする支援、物言えぬ空気…それでも子どもたちを守っていくために、当事者が声をあげることが大切だと話します。最後に記者が、メディアが当事者の声を伝え切れていない現実もあると綴っています。

援者に同行してきたそうです。少人数では声が届きにくいと、陳情の難しさを話しました。

ホッとネットおおさかの要望書

ホッとネットおおさかとして提出する要望書の内容を、グループに分かれて話し合いました。自主避難者という表記は、勝手に逃げてきた人として個人に責任を帰されるため、国内避難民とした方がよいのではないかと、自治体独自の政策判断で避難者を受け入れ、支えてゆくという対応を求めるべきではないか、など様々な意見が出ました。

結果として、ホッとネットおおさか構成団体有志で、無期限の住宅無償支援を求める要望書を、自治体の首長あてに出すことになりました。提出して終わりにせず、当事者や支援者の状況や思いを伝えるために、回答と協議の場を求めます。

今後、腰をすえて説得してゆくことも必要と考え、議会提出も検討しています。

次回のホッとネットおおさか定例会は…

日時：1月13日（金）13:30～16:00

場所：大阪弁護士会館

